

循環器病学

責任者・コーディネーター	循環器内科分野 森野 禎浩 教授		
担当講座・学科（分野）	循環器内科分野、地域医療学分野、心臓血管外科学講座、小児科学講座、放射線医学講座、臨床検査医学講座、救急医学分野、岩手県高度救命救急センター		
担当教員	森野 禎浩 教授、伊藤 智範 教授、金 一 教授、小山 耕太郎 教授、吉岡 邦浩 教授、田代 敦 准教授、小松 隆 准教授、佐藤 衛 客員准教授、房崎 哲也 特任准教授、安孫子 明彦 特任准教授、照井 克俊 特任准教授、石田 大 講師、小泉 淳一 特任講師、満永 義乃 助教、田林 東 助教		
対象学年	3	区分・時間数	講義 30コマ 45.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

心臓や脈管系の異常を中心とした循環器疾患は、患者の生死を直接左右する事が多く、その知識習得は重要である。将来医師として活躍するために必要な循環器領域全般の基本知識を習得させる。また、病態生理および心電図診断、超音波画像診断、胸部CTならびにMRI画像診断、核医学画像診断や外科的治療法ならびに小児循環器領域の最新話題も盛り込んで講義する。

・教育成果（アウトカム）

1. 疾患項目ごとに循環器内科講座、高血圧・腎臓内科講座、心臓血管外科講座、小児科学講座、放射線医学講座、救急医学講座が講義を担当することで、循環器疾患の病態生理、診断、治療を包括的に説明できる。
2. 循環器領域では、「画像を目で見る」ことや「心音・呼吸音を聞く」ことが大切であり、授業にはコンピュータ画像やCDなどを用いる視聴覚情報を取り入れた学習をすることで、その知識を説明できる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,4,6 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	心臓を中心とした循環生理を説明できる。
2	大動脈疾患の理解とその内科的・外科的な治療法を説明できる。
3	心筋梗塞症や狭心症の病態と内科的・外科的な治療法を説明できる。
4	弁膜症の病態の理解や診断ができ、治療法を説明できる。
5	心不全の病態の理解や診断ができ、治療法を説明できる。
6	心筋症や心膜疾患の病態や治療法を説明できる。
7	胸痛などの救急疾患の鑑別を説明できる。
8	不整脈疾患の病態の理解や診断ができ、治療法を説明できる。
9	先天性心臓病の診断と外科的治療法が説明できる。
10	心臓や脈管の画像診断を説明できる。
11	心臓外科手術に必要な人工心肺装置、心筋保護液、医療材料を説明できる。
12	循環器疾患の治療に必要な薬剤の薬理作用ならびにその適応を説明できる。
13	循環器疾患の診断や治療に必要な医療機器を説明できる。

・講義場所

講義：西1—C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	5/22(水)	3	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	総論	1
講義	5/22(水)	4	循環器内科分野	石田 大 講師	診察	6,7,10
講義	5/29(水)	3	心臓血管外科学講座	金 一 教授	心臓弁膜症、心臓腫瘍（外）	1,4,11,13
講義	5/29(水)	4	臨床検査医学講座	田代 敦 准教授	心臓弁膜症（内-I）	4,13
講義	6/5(水)	3	心臓血管外科学講座	満永 義乃 助教	末梢血管（外）	2,10,11,13
講義	6/5(水)	4	臨床検査医学講座	田代 敦 准教授	心臓弁膜症（内-II）	4,13
講義	6/12(水)	3	心臓血管外科学講座	小泉 淳一 特任講師	先天性心疾患（外）	9,11
講義	6/12(水)	4	循環器内科分野	森野 禎浩 教授	虚血性心疾患（内）	3,7,10,12
講義	6/19(水)	3	循環器内科分野	森野 禎浩 教授	虚血性心疾患（内）	3,7,10,12
講義	6/19(水)	4	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	心不全の診断と治療	1,5,12
講義	9/30(月)	3	小児科学講座	小山 耕太郎 教授	先天性心疾患(小-I)	1,9,13
講義	9/30(月)	4	循環器内科分野	小松 隆 准教授	基礎心電図学	8
講義	10/18(金)	3	生体情報解析部門	佐藤 衛 客員准教授	心筋症・心筋炎	5,6,12
講義	10/21(月)	3	小児科学講座	小山 耕太郎 教授	先天性心疾患（小-II）	1,9,13
講義	10/21(月)	4	循環器内科分野	小松 隆 准教授	静脈性不整脈	8,12,13
講義	10/28(月)	3	小児科学講座	小山 耕太郎 教授	先天性心疾患（小-III）	1,9,13
講義	10/28(月)	4	循環器内科分野	小松 隆 准教授	頻脈性不整脈	8,12,13
講義	11/11(月)	3	循環器内科分野	安孫子 明彦 特任准教授	脈管（内）	2,10
講義	11/11(月)	4	循環器内科分野	小松 隆 准教授	プライマリー不整脈疾患	8,13
講義	11/18(月)	3	心臓血管外科学講座	小泉 淳一 特任講師	先天性心疾患（外）	9,11,13
講義	11/18(月)	4	岩手県高度救命救急センター	田林 東 助教	脈管（外）	2,10,11,13
講義	11/25(月)	3	岩手県高度救命救急センター	田林 東 助教	脈管（外）	2,10,11,13
講義	11/25(月)	4	救急医学分野	照井 克俊 特任准教授	心肺蘇生・致死的不整脈	8,12
講義	12/2(月)	3	心臓血管外科学講座	金 一 教授	心臓外科手術概要	1,4,11,12
講義	12/9(月)	3	放射線医学講座	吉岡 邦浩 教授	循環器の画像診断	6,10,13
講義	12/9(月)	4	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	循環器領域の国試対策（内-I）	1,10,12,13
講義	12/16(月)	3	循環器内科分野	房崎 哲也 特任准教授	心内膜・心外膜疾患（内）	6,7,10

講義	12/16(月)	4	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	循環器領域の国試対策（内-II）	1,10,12,13
講義	12/23(月)	3	心臓血管外科学講座	金 一 教授	虚血性心疾患、感染性心内膜炎（外）	1,3,13
講義	12/23(月)	4	循環器内科分野	森野 禎浩 教授	循環器薬と補助循環	1,3,5,11,12,13

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	内科学 11版	矢崎義雄 総編集	朝倉書店	2017
推薦図書	新・病態生理できた内科学 全9冊	村川裕二 監修	医学教育出版社	2009-2013
参考書	CD-ROM Heart sounds（日本語版 Ver.2.0）：動画と心音による循環器疾患診断へのアプローチ	John Michael Criley ほか著 森経春 訳	南江堂	2006
推薦図書	先天性心疾患	中澤 誠 編	メジカルビュー社	2014
推薦図書	ハーバード大学テキスト心臓病の病態生理 第3版	川名正敏、川名陽子 訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2012
参考書	不整脈学	井上博、村川裕二編集	南江堂	2012
参考書	不整脈概論—専門医になるためのエッセンシャルブッカー	池田隆徳、山下武志編集	メジカルビュー社	2013
参考書	Electrocardiography A to Z.	清水 渉編集	東京；日本医師会雑誌	2015
参考書	循環器内科専門医バイブル 全3冊	小室一成総編集	中山書店	2018

・成績評価方法

<p>総括評価：前期試験の筆記結果3割、後期試験の結果7割で合算し、100点満点となるようにして、60点以上を合格点とする。</p> <p>形成的評価：講義中に口頭試問や議論形式の評価を行い、学生にフィードバックする。授業参加態度についても評価する。</p>

・特記事項・その他

<p>1. 血管疾患 大動脈瘤、解離性大動脈瘤の診断・治療、閉塞性動脈硬化症、Buerger病の治療、静脈疾患</p> <p>2. 血圧異常 本態性高血圧症の定義、病因、病態生理、分類、治療</p> <p>3. 不整脈 各不整脈疾患の分類・病因・機序・症候・診断・治療</p> <p>4. 先天性疾患、小児の後天性心疾患 各疾患ごとの分類・病態生理・症候・診断・治療、手術適応・術式</p> <p>5. 心臓弁膜症 各疾患の病因・病態生理・症候・診断・治療、手術適応・術式</p> <p>6. 虚血性心疾患 狭心症、心筋梗塞症、無症候性心筋虚血の危険因子・病態生理・症候・診断・治療、手術適応・術式</p> <p>7. 心膜・心筋疾患、心筋炎、心筋症、心不全の病因・分類・病態生理・診断・治療</p> <p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要し、事前学習の内容に関する小テストを行う。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設けかつグループワークによる十分なディスカッションを行い、講義冒頭で事前学習内容の発表時間を設ける。また、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業でその解説を行う。さらに、教科書の要点をレポートにまとめWeb classにその内容を報告する。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。本内容は全授業に対して該当するものとする。</p>
--

・教育資源

教科書・参考書、講義室、実習室、PC、参考書、推薦図書、コンピュータソフトウェア、インターネット環境
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			